

2024年9月27日
株式会社大和コンピューター

A-SAP 産学官金連携イノベーション推進事業の採択について ～コナジラミを対象とした光誘引駆除機の開発～

株式会社大和コンピューター（大阪本社：大阪府高槻市／東京本社：東京都港区、代表取締役社長：中村 憲司、以下「大和コンピューター」）の子会社で農業事業を手掛ける株式会社ルーツ（本社：静岡県袋井市、以下「ルーツ」）は、公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター（所在地：静岡県浜松市、以下「フォトンバレーセンター」）の支援する「A-SAP 産学官金連携イノベーション推進事業」第21期プロジェクトに採択されました。ルーツが「A-SAP 産学官金連携イノベーション推進事業」に採択されるのは2回目です。

今回採択されたプロジェクト内容は、『コナジラミ（※）を対象とした光誘引駆除機の開発』であり、プロジェクトリーダーは静岡理工科大学 理工学部・機械工学科の牧野教授になります。

昨今の都市化とグローバル化の進展、温暖化の影響により害虫の発生件数は世界的に増加傾向にあり、衛生的な生活環境を維持することの重要性に対する意識の高まりが、害虫駆除の必要性を加速させています。その中でも、メロンやトマトといった静岡県を代表する農作物に害を及ぼすコナジラミを対象とした光誘引式駆除装置の開発を目指しています。また、将来的には、光技術を活用した技術をハウス栽培農業に取り込むことを目標としています。

現在開発中のコナジラミを対象とした光誘引駆除機の試作機は、10月9日から11日に幕張メッセで開催される第14回農業WEEKにて展示します。試作機の特徴は、黄色LEDランプの設計と配置の最適化および吸引力とスリット幅のバランスです。実際にルーツの自社農園にて設置・運用している試作機を是非ご覧ください。

ルーツは、静岡県袋井市にて、自社農業生産設備を稼働し、土を使わない養液栽培によるマスクメロンおよびトマトの栽培、栽培収量向上に向けた「統合環境制御システム」の構築など、付加価値生産性を高める取組みを多角的に行っています。

大和コンピューターは、2008年から「日本の農業を強くしたい」、「日本の食を支えたい」という思いから農業に関する活動を開始しました。大和コンピューターは、ルーツを通じて、『農業×IT』で日本の農業が抱える課題を解決していくことを目指しており、将来的にはグローバルでのスマート農業にもチャレンジして参ります。

※コナジラミ：全長 3mm 以下の白い微小昆虫。葉裏に寄生し汁を吸い、被害が進むと、葉緑素が抜け白っぽくなる。繁殖力が強く、薬剤に対する抵抗力もつきやすい。コナジラミが排泄する甘露のついた葉や花の表面にすす病が発生したり、ウイルス病を媒介したりする。作物に深刻な被害を与える重要害虫。

■参考資料

・ A-SAP 採択ページ

<https://www.hai.or.jp/pvc/asap/news/news-510/>

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社大和コンピューター 社長室 松宮、中村

TEL：072-676-2221